

要 約

試 験 委 託 者 : 環境省

表 題 : 二硫化ジフェニルのヒメダカ (*Oryzias latipes*) に対する
急性毒性試験

試 験 番 号 : A 0 3 0 4 2 5 - 4

試 験 方 法 :

- 1) 適用ガイドライン: OECD 化学品テストガイドライン No. 203 「魚類急性毒性試験」
(1992年)
- 2) 暴 露 方 式 : 半止水式 (24時間毎に試験液の全量を交換)
水面をテフロンシートで被覆
- 3) 供 試 生 物 : ヒメダカ (*Oryzias latipes*)
- 4) 暴 露 期 間 : 96時間
- 5) 試 験 濃 度 : 対照区, 助剤対照区, 0.0200, 0.0360, 0.0640, 0.110, 0.200 mg/L
(設定値) 公比: 1.8
助剤濃度一定: 100 μ L/L (ジメチルホルムアミド 使用)
- 6) 試 験 液 量 : 5.0 L/容器
- 7) 連 数 : 1 容器/試験区
- 8) 供 試 生 物 数 : 10尾/試験区
- 9) 試 験 温 度 : 24 \pm 1 $^{\circ}$ C
- 10) 照 明 : 室内光, 16時間明 (1000 lux以下) / 8時間暗
- 11) 分 析 法 : 高速液体クロマトグラフィー (HPLC)

試 験 結 果 :

1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果, 測定値の設定値に対する割合は, 暴露開始時において92~99%, 24時間後において36~57%であった。濃度減少の主な原因は吸着であり, ガラス容器への吸着やヒメダカへの移行と思われた。

2) 96時間暴露後の半数致死濃度 (LC50) : 0.0577 mg/L (95%信頼区間: 0.0418~0.0796 mg/L)